


ふりがな 氏名	ちば しもん	都道府県	神奈川県	
	千葉 志門			
所属/肩書	特定非営利活動法人フリースペースたまりば			
私の ESD活動	所属団体の一員として、遊びや食事を通して子ども・若者の暮らしを取り戻し、自己肯定感を育む活動			

### 活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

私が一員として活動する特定非営利活動法人フリースペースたまりばは、「川崎市子ども夢パーク」とその中にある「フリースペースえん」の運営団体として活動している。

川崎市子ども夢パークでは、子どもの「やってみたい！」という気持ちを大切に、遊びを制限するような禁止事項を極力減らしている。土や水遊びはもちろん、たき火や工具・木材を使ったものづくりまで子どもたちは自由に遊ぶ。遊びやものづくりを通して自分の限界に挑戦できる。挑戦の過程で失敗し、自分の弱さを実感するが、失敗してもいいんだと見守る関わりの中でその弱さを受け入れることができる。挑戦を続けることで成功を経験し、「できた！」という達成感と自分も「やればできる」という自信を得る。子どもたちは遊びから多くのことを学び、自分で考え、判断することのできる力が養われていく。

また、同じ敷地内にあるフリースペースえんには不登校・ひきこもりの子ども・若者を中心に、日常的に30人から40人程度通ってくる。貧困や障がいなど様々な背景を持つ異年齢の人たちがまざりあい、スポーツをする者、楽器を演奏する者など各々が自由に過ごしている。毎日昼食をみんなで作って、一緒に食べている。子どもたちが自ら耕した畑から収穫した野菜も食べる。「つくってくれた人ありがとう」の言葉が部屋に飛び交うと元気な「いただきます」が聞こえる。皆で食卓を囲み、ワイワイ食べることで「ひとりじゃない」ことを実感し、肩を寄せ合い隣の人と話しをしながら食べることで「つながり」を感じることができる。

安心して失敗できる環境でできなかったことを克服する経験や、「ありがとう」と他者から感謝されることを通して徐々に自尊感情が育まれる。ありのままの自分を受入れ、暮らしを取り戻して巣立った人の中には、子育てのために夢パークの近くに引っ越してきた例も見られる。

フリースペースたまりばはこうした活動を日々続けている。

・川崎市子ども夢パーク: <http://www.yumepark.net/>

・特定非営利活動法人フリースペースたまりば: <http://www.tamariba.org/>

### 今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

今後のESD発展のためにわれわれが担うべき役割として、第一に、現在実践しているESDの活動を維持し続けることがあげられる。日々子ども・若者たちと接していて感じるのは、ESDを実践している実感はあるものの、一朝一夕に結果が得られるものではないということ。そのため、子ども・若者たちに寄り添い、暮らしを共にする現在の活動を根気強く続けていきたいと考えている。

第二に、所属している団体の一員として、日々のESD活動の実践を多種多様かつ多くの方々に伝え、現場における経験の共有を図ることがあげられる。子どもたちが様々な経験や関わりの中で失われた自尊感情を取り戻していく過程や、現場で聞こえる子どもたちの生の声、そしてそこに寄り添い続けるスタッフを含めた様々な人たちの考え方や様子を、ESDの考え方への知識や理解がまだない方々を含め様々な方々に伝え、共有し、知っていただくことがESDの発展に寄与するものと考えている。